

スポーツに関する住民意識調査

辻 村 広 志

I はじめに

戦後30年にして日本経済は著しい発展をとげてきた。そして世界の先進国としてますます繁栄しようとしている。しかしその反面公害をはじめ生活環境が悪化し、人間生活を続けるに不可能な場所が出てきていままでも住みなれた家を離れなければならないような現状がいくつも出現している。このような事態をいったい我々はどのように認識し、それに対処していかなければならないかをよく考える必要がある。

都市の近代化が進むことによって運動不足になり文明病というものが発生してくる。そのような文明病をなくして健康へとつながるものは、心と体のバランスがとれて始めて心身の豊かさがたもて、やがて健康となるのである。いまや近代化と平行して人間の健康維持をしそれを持続することを考えなければならない。

こうした現況を察知してか最近スポーツをする国民が多くなったと聞かすが、それはスポーツ活動を通して現代社会の文明病を未然に防ごうとする気持が動いたからである。そこで小論は近代化によって運動不足がおこりがちな主婦を対象に、スポーツに対する意識を通して、スポーツに示される活動の実態などを深ってみることとした。

Ⅱ 調査の研究方法

(調査法)

徳山大学の女子体育学生29名の協力のもとに質問紙をもって面接アンケート方式によって行なわれた。

(調査時期)

昭和50年6月15日～昭和50年7月5日

(調査対象)

徳山在住の主婦で年齢には範囲を定めなかった。したがって18歳から73歳までの主婦440名が対象となった。440名の調査票のうち84票が記入不明確のため除外したので本報告では356名が実質的な対象となった。

(調査の内容)

調査内容は一連に「過去1年間スポーツをしたか、しなかったか」に大別され、“しなかった者”は問1～2だけを解答し、“した者”は問2以外全部に解答をお願いした。その内分は次のようになる。

対 象	356名	過去1年間スポーツを“しなかった者”	270名(76%)
		過去1年間スポーツを“した者”	86名(24%)

(調査項目)

あらかじめ予備調査を行い本調査項目を作成した。

問が5つに分かれており質問項目は全部で10項目である。

問1. スポーツは好きか嫌いか

- イ. スポーツは自分で行うのが好き ロ. 見る方が好き ハ. 両方好き
ニ. 好きでも嫌いでもない

問2. 過去1年間全くスポーツをしなかった。

- イ. 仲間がいらない ロ. 手軽なスポーツがない
ハ. 自由時間がない ニ. スポーツは嫌いだから
ホ. 体力に自信がない ヘ. 子供に手がかかる

イ. グランド

ロ. 体育館

ハ. プール

ニ. 運動公園

ホ. 広場

ヘ. コート(テニス, バレー)

年齢(才)	(共働き)	徳山在住年数(年)
住居(自宅. 借家.	アパート.	県市公団住宅)

Ⅲ 調査結果

(1) 356名の対象者を年代別に分けると表1のようになる

表 1

年代別	60才以上	59-50	49-40	39-35	34-30	29-25	24-20	19才以下	合計
スポーツをしなかった者	17 (6.3%)	29 (10.7%)	63 (23.3%)	31 (11.5%)	59 (21.9%)	53 (19.6%)	16 (5.9%)	2 (0.8%)	270 (100%)
スポーツをした者	3 (3.5%)	2 (2.3%)	14 (16.3%)	14 (16.3%)	21 (24.4%)	20 (23.2%)	9 (10.5%)	3 (3.5%)	86 (100%)

356名中過去1年間スポーツを“しなかった者”270名で76%をしめている。またスポーツを“した者”は86名で24%であった。したがって100人中76名が“しなかった者”となり24名が“した者”となる。4人に1人の割合でなんらかの形で過去1年間にスポーツを行ったのであるが、正直いって思っていたことよりまったく逆の答えが出てしまったことは我々の認識不足からくるものなのか、あるいは表2の「見る方が好き」35.9%の数字にも表われているように、見て楽しみそれによってスポーツに参加しているのではないかと推察される。

(2) 問1「スポーツは好きか嫌いか」

過去1年間スポーツを“しなかった者”また“した者”も解答してもらったのが表2である。やはりスポーツを“した者”は「自分で行うのが好き」が23.3%あり「好きでも嫌いでもない」は9.3%と少い。“しなかった者”は7.1%と33.7%となりまったく逆の答えが出ている。「両方好き」では“した者”が

スポーツに関する住民意識調査

表 2

注○はスポーツを“した者”の数

年代別	60才以上	59-50	49-40	39-35	34-30	29-25	24-20	19才以下	合 計		
自分で行うのが好き				② 1	② 6	⑦ 8	⑤ 4	③	①	19 (7.1%)	⑳ (23.3%)
見る方が好き	6	② 16	29	① 8	① 18	② 15	② 4		1	97 (35.9%)	⑧ (9.3%)
両方好き	4	① 5	② 12	⑪ 12	⑨ 10	⑦ 17	⑬ 3	⑤	②	63 (23.3%)	⑤① (58.1%)
好きでも嫌いでもない	7	8	22	10	② 25	⑤ 13	5	①	1	91 (33.7%)	⑧ (9.3%)
										270 (100%)	⑧① (100%)

58.1%と半分以上がであり“しなかった者”が23.3%とかなりのひらきがある。また表にないが「嫌い」と答えた者が“しなかった者”の中に2%ほどあった。

(3) 問2「過去1年間スポーツをしない」

これは270名の“しなかった者”だけの解答であり表3のとおりである。

表 3

年 代 別	60才以上	59-50	49-40	39-35	34-30	29-25	24-20	19才以下
仲間がいない					7	5	2	
手軽なスポーツがない	1		13	6	9	2	3	
自由時間がない	1	10	26	10	22	17	4	1
嫌いだから			3			2	1	1
体力に自信がない	12	14	19	8	11	6	1	
子供に手がかかる				8	25	33	6	
ケガをするから								
病気のため	2	4	4	5	3	1		
年だから	3	3						

表にも示されてあるように「子供に手がかかる」「自由時間がない」の2項目では25歳～40歳に多数いることは、表2にある「両方好き」の23.3%となつてあらわれているものと思われる。したがって子供が学校に行けるようになればスポーツを“した者”の数をもっとふえる結果になる。

(4) 問3の(1)(2)(3)は表4に示したとおりである。

「定期的にスポーツを行ってきた」では週1～2回が多く、不定期にスポーツを

表 4

年 代 別	定期的にスポーツを行ってきた				不定期にスポーツを行ってきた			スポーツに費いやした時間量			
	週四日以上した	週三回行った	週二回行った	週一回行った	月に一～五回行った	年に一～五回行った	季節的に行った	一回の行うスポーツは二時間以上	〃 一時間から二時間	〃 三十分から一時間	〃 三十分未満
60才以上			1		1			1		1	
59 - 50							1				1
49 - 40	2		1	2	2	1	5	1	5	4	1
39 - 35	2			5	2	2	3	2	5	4	1
34 - 30	2		6	5	2	2	4	6	4	7	2
29 - 25	1	3	3	4		3	9	6	9	2	3
24 - 20	2	1		1	4		1	1	6	2	
19才以下			1	1		1	1		1	2	
合 計	9	4	12	18	11	9	24	17	30	22	8

スポーツに関する住民意識調査

表 5

年 代 別	過去1年間に実施してきたスポーツ種目2つ以上選択して下さい																											
	体 操	軟 式 テ ニス	硬 式 テ ニス	卓 球	バ ド ミ ント ン	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	ハ ン ド ボ ー ル	ゴ ル フ	ソ フ ト ボ ー ル	キ ャ ッ チ ボ ー ル	マ ラ ソ ン	柔 道	剣 道	空 手	合 気 道	弓 道	ア ー チ ェ リ	水 泳	登 山	ス キ ー	ス キ ー	サイ ク リ ン グ	キ ャ ッ チ ボ ー ル	フ ォ ー ク ダ ン ス	な わ と び	散 歩	運 動 会	オ リ エン テ ー リ ン グ
60才 以上																											3	1
59-50	1																											
49-40	2			1	8	10		2										1	1	1	3				3	4	1	
39-35	1	1		2	4	8		1	5								2	1		2					1	3	2	
34-30	2	2	1	3	9	5		1	1	1							2	1		1				2	8	6	4	
29-25	1	2		2	8	12		1	4		1						1	1	2		1				4	3	1	
24-20				4	2	4		1	1	1	1	2	1	1			2	1								1	1	
19才 以下		1		1	1	1		2											1	1	2					1		
合 計	7	6	1	13	32	40		1	4	14	2	1	3		1	1		7	3	6	2	9		2	16	21	10	

表 6

年 代 別	どのような人と スポーツを行ったか						どのような場所で スポーツを行ったか						スポーツを行った場所で不便を 感じたか														
	独 り で	家 族	ク ラ ブ	同 好 会	職 場 の 仲 間	地 域 の 仲 間	職 場 地 域 以 外 の 友 人	学 校 施 設	公 共 施 設	職 場 施 設	商 業 施 設	家 庭	道 路	空 地	交 通 の 便 が 悪 い	待 時 間 が 多 い	器 具 が 少 い	利 用 手 続 を 簡 単 に	夜 間 照 明 ほ し い	シ ャ ワ ー が な い	更 衣 室 が な い	冷 暖 房 が な い	談 話 室	託 児 設 備	休 日 の 利 用	安 全 性 に と ぼ し い	
60 才 以 上	1			1	1			1				1															
59-50	1				1		1				1		1														
49-40	1	9		1	6	7		4	7	3	1	2	2	1	1	1	3	2			1				1	2	
39-35	1	8		3	2	6	1	3	5	1	2	4		2	2	1						1			1	3	
34-30	1	16	2	2	7	7		2	10	6	1	6	3	3	3		1	1							1	1	
29-25	1	9	1	2	8	8		6	6	5	6	3	1	3	3	1	2		2	1				2	2	2	
24-20	3	2	3	1	4	2	1	4	3	3	1	1		2		1									1	3	
19 才 以 下				2	1		2				1		4	1		1										2	
合 計	9	44	6	12	28	32	4	20	32	18	12	17	11	13	9	4	7	3	2	1		1	1	2	6	13	

スポーツに関する住民意識調査

を行ってきた」では「季節的に行った」が多数占めている。「スポーツに費いやした時間量」は「1時間から2時間」が多数である。72歳の方が2時間以上というのは山を歩いたために出きた数字である。

(5) 問4の(1)は表5に示したとおりである。

卓球、バドミントン、バレーボール等の球技に人気があるようである。また水泳、登山、スケート、スキーの季節的に行うスポーツにも平均的に行なわれていようである。なわとび、体操、散歩など家庭でやれるもの、1人でやれる

表 7

年 代 別	スポーツを続けるにあたって特に設置してほしいものはなにか						
	グ ラ ン ド	体 育 館	プ ー ル	運 動 公 園	広 場	テ ニ ス コ ー ツ ポ ー ル	洗 面 所
60才以上				1			1
59 - 50					1		
49 - 40		1	1	4	4	3	
39 - 35		5		3	2	3	
34 - 30	3	3	2	6	5		
29 - 25		3	1	8	5	2	
24 - 20	2	2	1	2	1	1	
19才以下				1	1		
合 計	5	14	5	25	19	9	1

ものも多い。ただいえることは全体を見て年代に関係なく平均化していることである。

(6) 問4の(2)(3)は表6に示したとおりである。

「どのような人とスポーツを行ったか」では「家族」、「転場」、「地域」といった人達とスポーツをしたのか多く、その人達が「どのような場所でスポーツを行ったか」では「公共施設」、「学校施設」、「転場施設」を多く利用したようである。ただ「道路」、「空地」を利用しなければならない人達がいることは早急に何らかの方法を見出さなければならない。「施設を利用して不便を感じたか」では「安全性にとぼしい」、「交通の便が悪くい」、「器具が少い」が多い。それと「休日の利用」では学校施設を解放することは現状から見てまだまだむずかしいのではないか。

(7) 問5「スポーツを続けるにあたって特に設置してほしいものは何か」は表7に示すとおりである。

「運動公園」、「広場」、「体育館」の順に希望している。

Ⅳ 考 察

(1) 調査結果で100人中に24人がこの1年間スポーツをやってきたわけである。すなわち人口10万の徳山市で2.4万人の主婦がスポーツをやってきたことになる。「自由時間がない」、「子供に手がかかる」等が解消されれば2倍以上になっていくであろう。それにはいまから市民が安心してできるスポーツ施設を整備することを充分配慮しておかなければならない。

(2) 文部省が昭和48年に「スポーツの好き嫌い」を調べた中に「自分で行うのが好き」では一般女子が13.6%であり男子が24%であった。徳山市の主婦は23.3%であり全国の一般女子よりはるかにスポーツを行っているのがわかる。

このことから考えて徳山市の主婦にはスポーツが定着しつつあるとみれる。

(3) 「時間量」からみて「1時間～2時間」が多くなっているが、主婦という立場から当然といえる。なぜならば「定期的にスポーツを週1～2回行ってい

スポーツに関する住民意識調査

表 8

注 右別欄中の数字はスポーツを「した者」の数

年代別	人数		共働き		徳山在住年数								家									
	3	5	6		21年以上	20-11	10-6	5-1	1年未満	自宅	借家	アパート	県市公団住宅									
60才以上	17	3			16	3	1			15	3	2										
59-50	29	2			24	2	3	1		23	2	2	2	1								
49-40	63	14	6		34	6	17	6	2	38	10	13	2	9								
39-35	31	14	4	3	4	5	16	3	7	15	9	6	4	8								
34-30	59	21	5	9	18	3	6	1	18	21	10	11	6	17								
29-25	53	20	3	7	6	4	5		10	16	9	11	5	19								
24-20	16	9	1	5	2	2	2	2		2	1	3	5	6								
19才以下	2	3	1	2				1	1					2								
合計	270 (100%)	86 (100%)	14 5.2%	32 37.2%	104 38.5%	25 29.1%	50 18.5%	13 15.1%	42 15.5%	19 22.1%	58 21.5%	25 29.1%	16 6.0%	4 4.6%	44 48.1%	51 17.8%	48 25.6%	22 23.3%	63 15.2%	13 10.8%	29 8.1%	7 8.1%

る」が多く、それと「季節的スポーツ」も行なわれていることから考えあわせれば、主婦という立場上いそがしいにもかかわらず計画的にスポーツ活動をやっているからである。

(4) 実施している種目を見ると、卓球・バドミントン・バレーボール等の球技、水泳・登山・スケート・スキー等の季節的なスポーツ、他にはサイクリング・体操・散歩等があげられる。これらの種目はほとんどが独りあるいは少数の仲間と手軽にできるものである。しかし実施時間量との関係や主婦ということを考えてと至極あたりまえといえる。

(5) 「どのような人とスポーツを行ってきたか」では「家族」、「職場」、「地域」等が非常に多くなっているが、主婦であって共働き（表8参照）をしているため職場仲間とも多くスポーツをするわけである。と同時に地域の仲間とも多数行っているということは、大都市にない地域ぐるみのスポーツがあるといえる。

(6) 実施場所では「道路」、「空地」を利用されている者が多少いることは「交通の便が悪い」と答えた者がいる関係からスポーツ施設までの交通機能が充分でないためであろう。ということは歩いて行けるぐらいの近くに施設がないことにもなる。また「安全性にとぼしい」、「交通の便が悪い」、「器具が少い」、「休日の利用」の順に不便を感じているとなっているが、本来スポーツ施設は、利用しやすいこと、安心してスポーツ活動ができることを中心に整備されていなければならない。

V まとめ

徳山市の主婦 356 名を対象に調査、そして考察したわけだが総体的に整理してみると次のようである。

(1) 主婦のスポーツ活動はかなりの実施状況を示しているといえる。特に計画性をもっていること、家族・地域ぐるみのスポーツをしていることである。

週休2日制がふえてやがて定着されることを考えれば、生活基盤としての地

スポーツに関する住民意識調査

域社会におけるスポーツ活動が盛んなことは人間回復としてもっともよいことである。

(2) 「運動公園」、「広場」、「体育館」の順で施設を設置してほしいと要望しているが、市内には国で規定された「運動公園」が1ヶ所あるが、これも車を利用しなければいけない状態である。できれば「広場」、「体育館」をおもいきって中心街に何ヶ所か設けてみてはどうだろうか。スポーツ活動をする条件には身近に施設があることである。

(3) いずれにしても主婦のスポーツ欲求は非常に高いといえる。

「した者」の中に「共働き」が37.2%もいることは、男女平等を強調される昨今よろこばしいことである。また表8に示した「徳山在住年数」、「家」の関係からはいて取りあげるほどの内容もなかったが、ただ一言いえることは「自宅」であるのが「しなかった者」と「した者」とは48.1%と51.1%で、多少であるが、「した者」の数字が多い。「アパート」では23.3%と15.2%で「した者」の方が少ない。以上のことを関連づけてみれば生活の中に計画性を持っていることに結びつく。すなわち前述した計画的にスポーツ活動を実施していることにもつながる。

(4) ここ2・3年前から「地域のコミュニケーション」について多方面で論じられているが、本調査から徳山市の主婦の間いだけでは適度なコミュニケーションがスポーツを通して「家族」、「職場」、「地域」で行なわれていると考えられる。

Ⅵ むすび

「スポーツに関する住民意識」の調査を考察そしてまとめてみたが、目的を達したほどの研究にはいたったとは思っていない。それらの点に関しては、今後本調査を充実させ、一層綿密な研究が必要とされなければならない。

最後に調査に当って労をしてくれた徳山大学一年の女子体育の学生諸君に謝意を表す。